



2027年3月期第2四半期決算説明資料

- I 2027年3月期第2四半期決算概要
- II 2027年3月期通期業績・配当予想の修正
- III 「中期経営計画2027」の補足説明
- IV 参考資料

I 2027年3月期第2四半期決算概要

II 2027年3月期通期業績・配当予想の修正

III 「中期経営計画2027」の補足説明

IV 参考資料

'27/3期1-2Q 決算概況(連結)

■受注高・受注残高

受注高は、海外事業、運営事業および環境エンジニアリング事業が好調に推移し、前期を上回った。

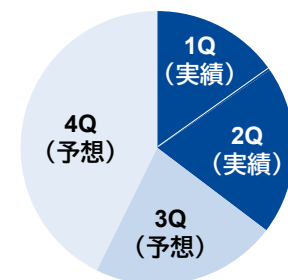
受注残高：'26/3期2Q末 355,716百万円⇒'27/3期2Q末 444,545百万円(+88,828百万円)

■売上高・営業利益（概ね計画通りに進捗）

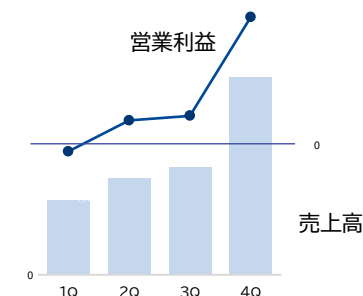
売上高は、海外事業におけるSchwing Bioset, Inc.（以下「シュウイング社」）、E & P Anlagenbau GmbH（以下「E & P社」）の連結影響に加え、環境エンジニアリング事業において大型建設工事が順調に推移したことなどにより増収。

営業利益は、海外事業におけるシュウイング社の不採算処理の影響が一部残ったことなどから前期を下回った。（P16 海外事業の営業利益推移 '26/3期 vs '27/3期参照、'27/3期末に改善見込み）

'27/3期 四半期別売上構成



<参考>'26/3期 四半期推移



海外事業における主力製品拡大、国内事業の収益改善を織り込み、
'27/3期通期業績予想および配当予想を上方修正する。（P13－17参照）

（百万円）

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 中間純利益	第2四半期末 1株当たり配当金（円）
'27/3期 1-2Q 実績	141,745 前期比 +32,909 +30.2%	86,532 +10,874 +14.4%	771 ▲349 ▲31.2%	436 ^{*1} ▲740 ▲62.9%	64 ▲532 ▲89.3%	期初予想 （2026年4月24日公表） 40
'26/3期 1-2Q 実績	108,836	75,657	1,120	1,177 ^{*2}	596	35

※百万円未満切り捨て（以降の実績値も同様） ※シュウイング社は'26/3期2Q、E&P社は'26/3期4QからPL連結開始

*1 為替差損 195百万円ほか *2 為替差益 25百万円ほか

'27/3期1-2Q 連結損益計算書(対前年増減)

(百万円)

'26/3期
1-2Q実績

'27/3期
1-2Q実績

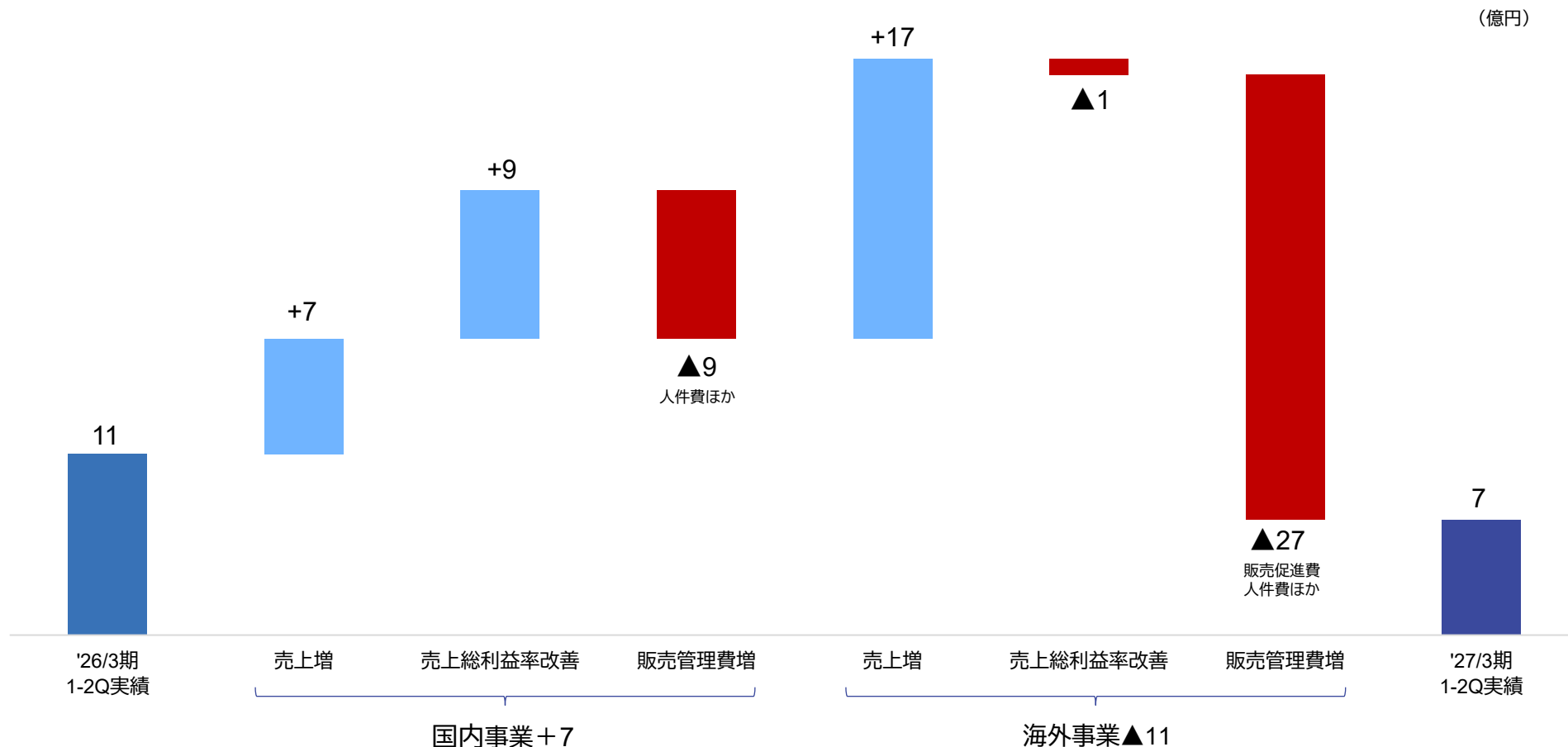
増 減

(百万円)

売 上 高	75,657	86,532	+10,874	売上高 増減	
売 上 総 利 益	16,483	19,766	+3,283	主に環境エンジニアリング事業 および海外事業が好調に推移	+9,015
営 業 利 益	1,120	771	▲349	うち為替影響+1,722	
(営 業 利 益 率)	1.5%	0.9%	▲0.6%	営業利益 増減	
営 業 外 損 益	56	-334	▲391	売上増影響	+2,369
経 常 利 益	1,177	436	▲740	売上総利益率改善(21.8%→22.8%)	+913
特 別 損 益	-13	-17	▲4	販売管理費増	▲3,632
税 金 等 調 整 前 益	1,164	419	▲745	営業外損益 増減	
法 人 税 等	389	154	▲235	為替差損益(25 ⇒ -195)	▲220
非支配株主に帰属する 中間純利益	177	201	+23	外貨建資産の評価損が発生	
親会社株主に帰属する 中間純利益	596	64	▲532	持分法による投資損益 (39 ⇒ -123)	▲162

'27/3期1-2Q 対前年 営業利益増減

国内事業は売上増と収益改善があったものの、
海外事業において一部不採算処理が残るシュウイング社の連結影響などがあり減益となった。



'27/3期1-2Q セグメント別（連結）実績

(百万円)	受注高			売上高			営業利益（営業利益率）		
	'26/3期 1-2Q実績	'27/3期 1-2Q実績	前期比	'26/3期 1-2Q実績	'27/3期 1-2Q実績	前期比	'26/3期 1-2Q実績	'27/3期 1-2Q実績	前期比
環境エンジニアリング事業 (EE事業)	22,512	29,740	+7,228	19,280	23,776	+4,495	17 (0.1%)	-171 —	▲189
システムソリューション事業 (SS事業)	40,910	37,367	▲3,542	17,277	18,026	+748	-2,210 —	-1,851 —	+359
運 営 事 業	18,154	27,730	+9,575	12,495	13,605	+1,109	502 (4.0%)	1,059 (7.8%)	+557
海 外 事 業 ^{※1}	27,258	46,906	+19,648	26,603	31,124 ^{※2}	+4,520	2,811 (10.6%)	1,734 ^{※2} (5.6%)	▲1,077
合 計	108,836	141,745	+32,909	75,657	86,532	+10,874	1,120 (1.5%)	771 (0.9%)	▲349

【受注高】 海外事業、運営事業および環境エンジニアリング事業が好調に推移し、前期を上回った。
なお、システムソリューション事業は、前期('26/3期1Q)に大型案件があった反動で前期を下回った。

【売上高】 海外事業におけるシュウイング社、E&P社の連結影響^{※3}に加え、環境エンジニアリング事業において、大型建設工事が順調に推移したことなどにより全セグメントで増収。

【営業利益】 海外事業におけるシュウイング社の連結影響、および環境エンジニアリング事業の資源リサイクル向け工事の低収益案件などにより、前期を下回った。

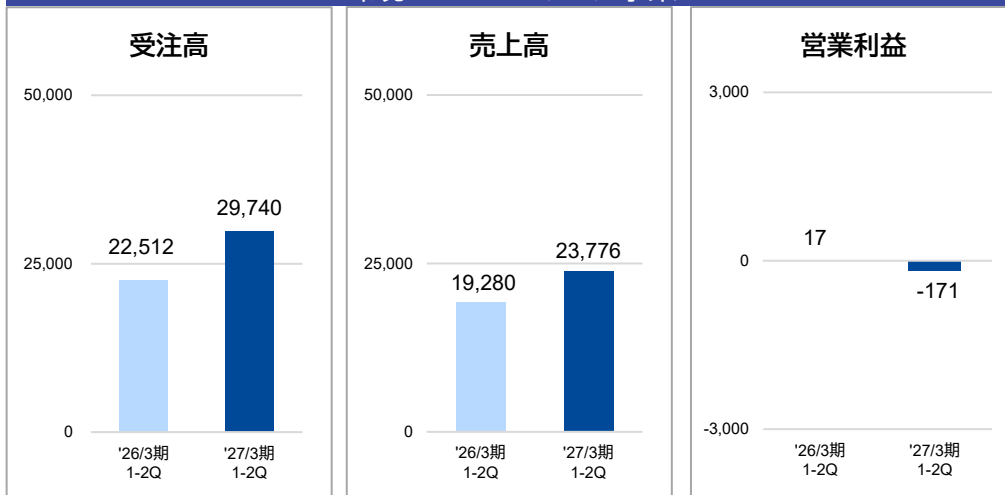
※1: 為替レート '26/3期1-2Q 148.4円/\$、'27/3期1-2Q 158.3円/\$ ※2: 為替影響: 売上高 1,722百万円、営業利益 135百万円

※3: シュウイング社は'26/3期2Q、E&P社は'26/3期4QからPL連結開始

セグメント別 概要①

(百万円)

環境エンジニアリング事業



水環境事業および資源環境事業で構成。主たる業務は、国内の浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向けの機械設備などの設計・建設および保守・維持管理など。

【受注高・受注残高】

受注高は資源環境事業が前期をやや下回ったものの、水環境事業が前期を上回った。

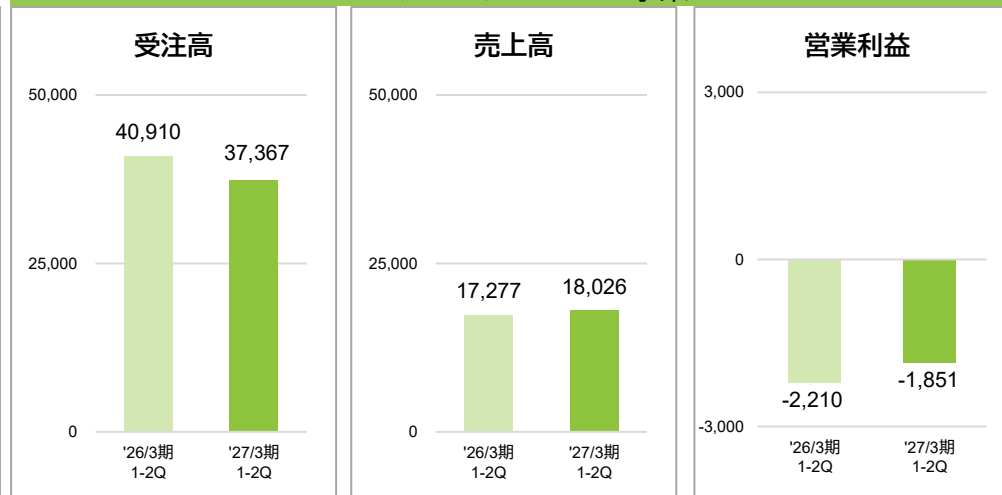
受注残高：104,746百万円→124,413百万円

【売上高・営業利益】

水環境事業においては、大型の建設工事が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

資源環境事業においては、大型の建設工事が順調に推移し、売上高は前期を上回ったが、低収益案件の影響や、保守・維持管理の売上高減少などにより、営業利益は前期を下回った。

システムソリューション事業



システムエンジニアリング事業およびカスタマーエンジニアリング事業で構成。主たる業務は、国内の浄水場・下水処理場向けの電気設備などの設計・製造および保守・維持管理など。

【受注高・受注残高】

受注高は、カスタマーエンジニアリング事業が前期を上回ったものの、システムエンジニアリング事業は前年同期における大型受注の反動減により、前期を下回った。

受注残高：94,959百万円→116,394百万円

【売上高・営業利益】

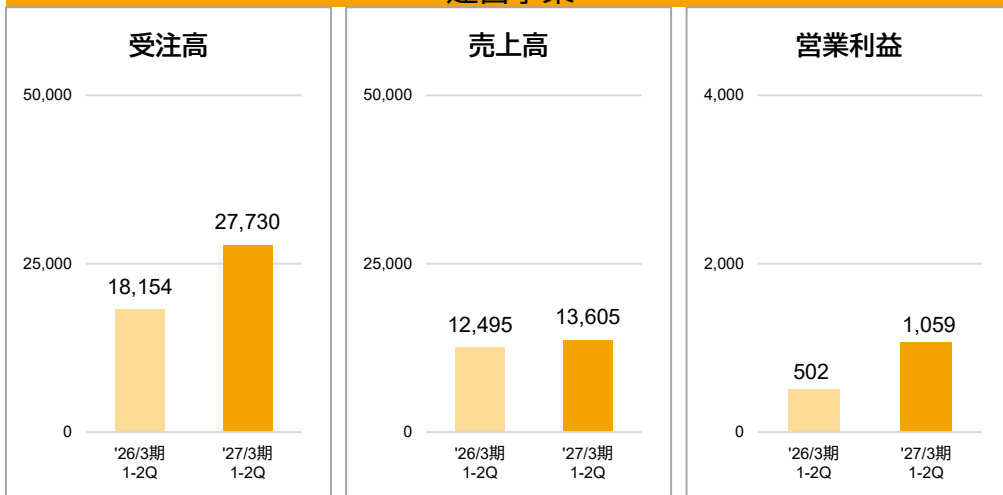
システムエンジニアリング事業においては、大型の工事が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

カスタマーエンジニアリング事業においては、修繕工事が順調に推移し、売上高は前期と同水準となり、また、一部案件の損益改善により、営業利益は前期を上回った。

セグメント別 概要②

(百万円)

運営事業



メタウォーターサービス(株)、SPCほかで構成。主たる業務は、国内の浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設の運営事業。

【受注高・受注残高】

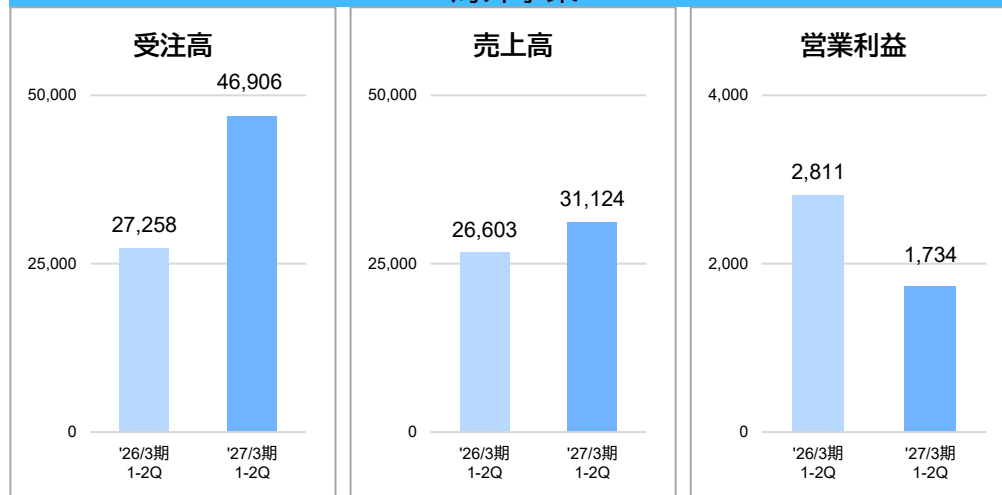
受注高は大型案件の受注が好調に推移し、前期を上回った。

受注残高: 108,678百万円 → 132,277百万円

【売上高・営業利益】

主にメタウォーターサービス株式会社の業績が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

海外事業



Aqua-Aerobic Systems, Inc. (北米)、Schwing Bioset, Inc. (北米)、Rood Wit Blauw Water B.V. (欧州)などの海外子会社ほかで構成。主たる業務は、海外の浄水場・下水処理場向けの施設・設備の設計・建設および保守・維持管理ならびに民需事業。

【受注高・受注残高】

受注高は北米および欧州の子会社の主力製品を中心に引き合いが好調に推移し、前期を上回った。

受注残高: 47,332百万円 → 71,459百万円

【売上高・営業利益】

主にAqua-Aerobic Systems, Inc.の業績が順調に推移し、売上高は前期を上回ったが、シュウイング社における低収益案件の影響により、営業利益は前期を下回った。

- * うち為替影響: 売上高1,722百万円、営業利益 135百万円
- * 海外子会社買収時の「のれん」ほか無形固定資産などの償却(6億円)処理後
- * 為替レート: '26/3期1-2Q 1\$=148.4円、'27/3期1-2Q 1\$=158.3円

連結貸借対照表

資産：'27/3期2Q末は、売上債権・契約資産の回収により現預金が増加。

負債：仕入代金の支払いにより買掛債務は減少。

(百万円)

	'26/3期 期末実績	'27/3期 2Q末実績	増 減
現 金 ・ 預 金	27,266	47,289	+20,023
売上債権・契約資産	109,932	68,771	▲41,160
仕 掛 品 ・ 貯 蔵 品	14,315	21,993	+7,677
そ の 他	11,640	8,672	▲2,967
流 動 資 産 計	163,154	146,727	▲16,426
有 形 固 定 資 産	13,835	21,670	+7,834
無 形 固 定 資 産	22,798	22,497	▲300
繰 延 税 金 資 産	3,149	3,240	+91
そ の 他 ^{*3}	17,355	20,250	+2,894
固 定 資 産 計	57,138	67,658	+10,520
総 資 産 計	220,292	214,385	▲5,906

	'26/3期 期末実績	'27/3期 2Q末実績	増 減
買 掛 債 務	37,570	20,524	▲17,046
短 期 借 入 金 ^{*1}	(711) 711	(576) 612	▲99
契 約 負 債	19,495	32,074	+12,578
そ の 他	21,481	19,052	▲2,429
流 動 負 債 計	79,259	72,264	▲6,995
社 債 ・ 長 期 借 入 金 ^{*2}	(13,883) 38,900	(13,662) 39,245	+344
そ の 他	7,981	8,069	+87
固 定 負 債 計	46,882	47,315	+432
負 債 計	126,142	119,579	▲6,562
純 資 産 計	94,150	94,806	+656
負 債 ・ 純 資 産 合 計	220,292	214,385	▲5,906

*1 *2 : カッコ内の数値はPFIなどプロジェクトファイナンス・ローンの金額 *3 : 繰延資産含む

連結キャッシュ・フローの状況

投資キャッシュ・フローについては、北米設備投資と水道機工株式会社の株式取得などの将来に向けた成長投資を実行。

(百万円)

	'26/3期 1-2Q実績	'27/3期 1-2Q実績	増 減	
現金・現金同等物の前期残高	35,683	26,736	▲8,947	
営業キャッシュ・フロー	31,799	32,535	+735	
投資キャッシュ・フロー	-6,615	-11,273	▲4,657	北米設備投資 水道機工株式取得※
フリー・キャッシュ・フロー	25,183	21,262	▲3,921	
財務キャッシュ・フロー	-5,045	-1,406	+3,639	
現金・現金同等物の期末残高	54,930	46,757	▲8,173	

※水道機工株式の保有割合 '26/3期 34.8% '27/3期 1-2Q 34.8%→48.1%



目次

I 2027年3月期第2四半期決算概要

II 2027年3月期通期業績・配当予想の修正

III 「中期経営計画2027」の補足説明

IV 参考資料

'27/3期 通期業績・配当予想の修正

■受注高

システムソリューション事業および海外事業の好調な受注を織り込み増額。

■売上高・利益

海外では北米子会社における既存製品・新技術が好調に推移し、国内では環境エンジニアリング事業の収益性の改善などを織り込み、**売上高、各利益共に前回予想を上回り、過去最高を更新する見通し。**

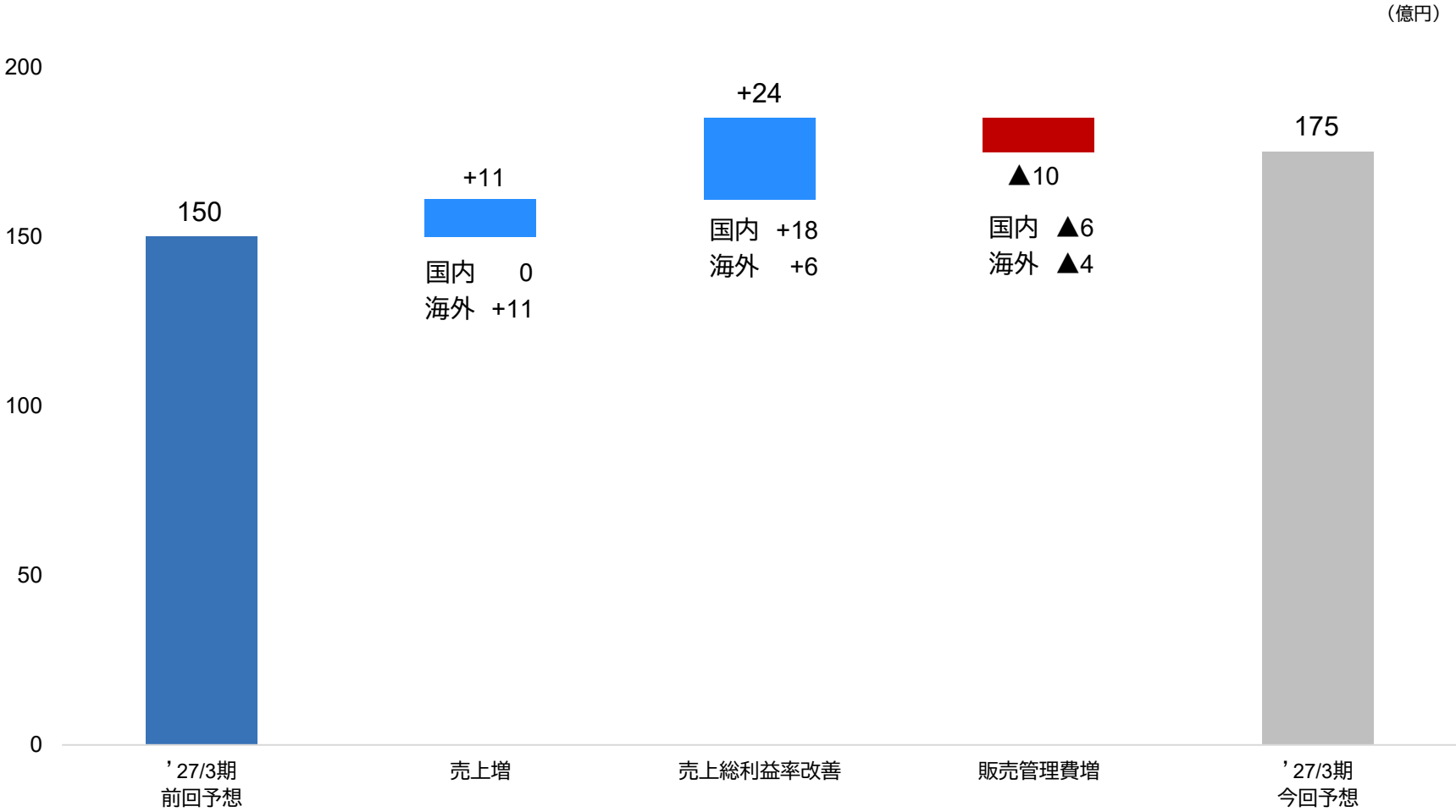
■配当・配当性向

当期純利益の上方修正を踏まえ、年間配当金を80円から90円へ増額。

	(百万円)					(円)	
	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益	年間配当金
前回発表予想 (2026年4月24日公表)	246,000	240,000	15,000	14,500	10,000	229.04	80
今回修正予想	260,000	245,000	17,500	17,300	12,000	274.69	90
増減額	+14,000	+5,000	+2,500	+2,800	+2,000	+45.65	+10
増減率	+5.7%	+2.1%	+16.7%	+19.3%	+20.0%	+19.9%	+12.5%
前期実績	274,532	209,844	12,879	13,175	9,136	209.30	70

'27/3期 通期業績予想(営業利益) 修正の内訳

海外事業では差別化製品・新技術の着実な販売展開、国内では環境エンジニアリング事業における収益性の改善を織り込み、期初予想比+25億円の上方修正。



'27/3期 セグメント別(連結)業績予想 (対前回予想比)

(百万円)

	受注高			売上高			営業利益 (営業利益率)		
	'27/3期 前回予想	'27/3期 今回予想	差異	'27/3期 前回予想	'27/3期 今回予想	差異	'27/3期 前回予想	'27/3期 今回予想	差異
環境エンジニアリング事業 (EE事業)	74,000	69,000	▲5,000	68,000	70,000	+2,000	5,000 (7.4%)	5,700 (8.1%)	+700
システムソリューション事業 (SS事業)	65,000	80,000	+15,000	66,000	65,000	▲1,000	2,900 (4.4%)	3,200 (4.9%)	+300
運 営 事 業	38,000	38,000	+0	40,000	39,000	▲1,000	2,500 (6.3%)	2,700 (6.9%)	+200
海 外 事 業※	69,000	73,000	+4,000	66,000	71,000	+5,000	4,600 (7.0%)	5,900 (8.3%)	+1,300
合 計	246,000	260,000	+14,000	240,000	245,000	+5,000	15,000 (6.3%)	17,500 (7.1%)	+2,500

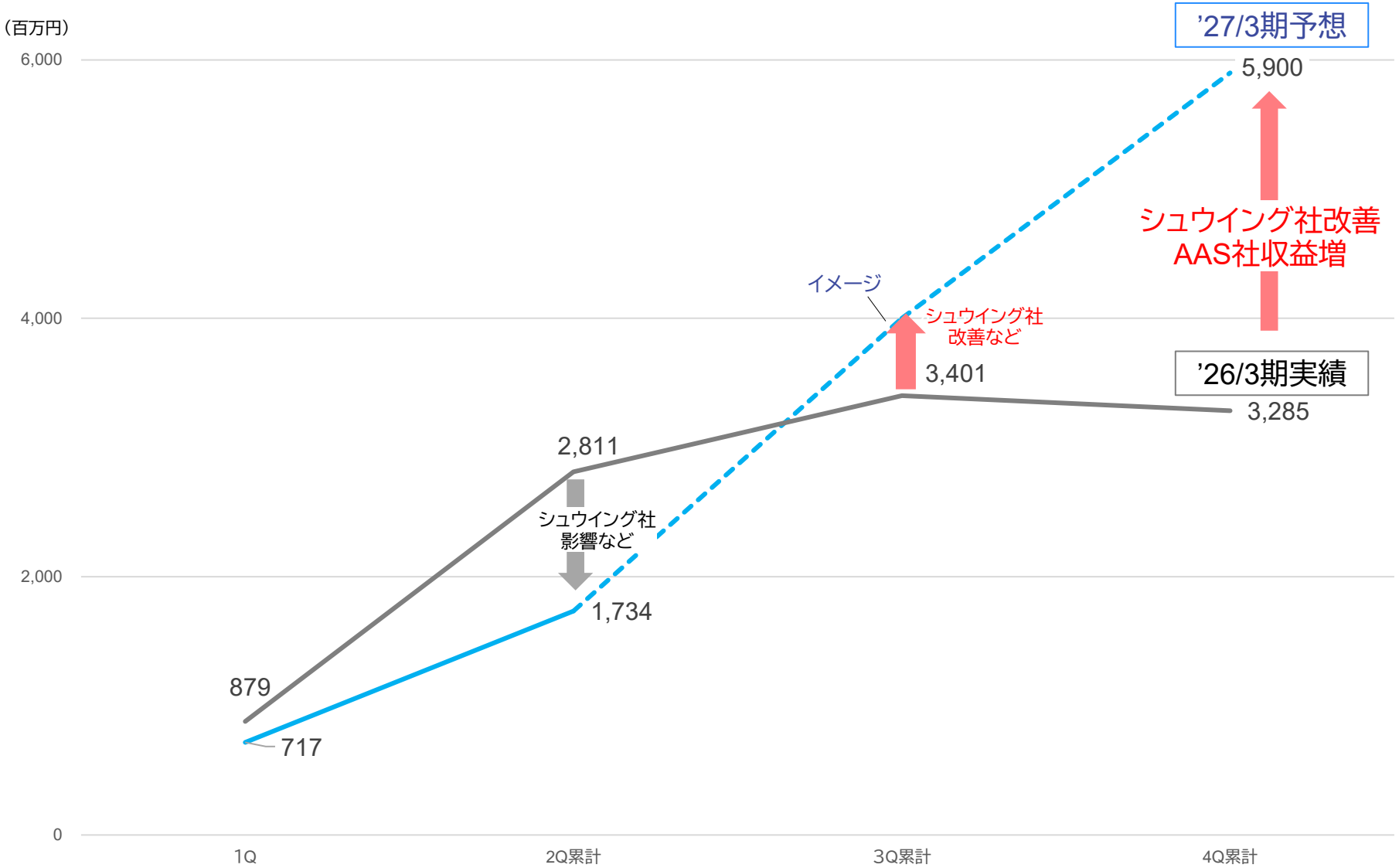
【受注高】 EE事業・SS事業における案件の発注時期変更に伴う受注増減の影響と、北米子会社の活発な需要を背景とした受注増を見込む。

【売上高】 主にEE事業のサービス部門の収益性の改善と、海外事業における既存製品・新技術が好調に推移し、増収を見込む。

【営業利益】 海外事業の利益率向上およびEE事業、SS事業のサービス部門が好調に推移し、過去最高益を更新する見通し。

海外事業の営業利益推移 '26/3期 vs '27/3期

'27/3期の海外事業の営業利益はシュウイング社の回復により、'27/3期末に向け大幅アップの見通し。

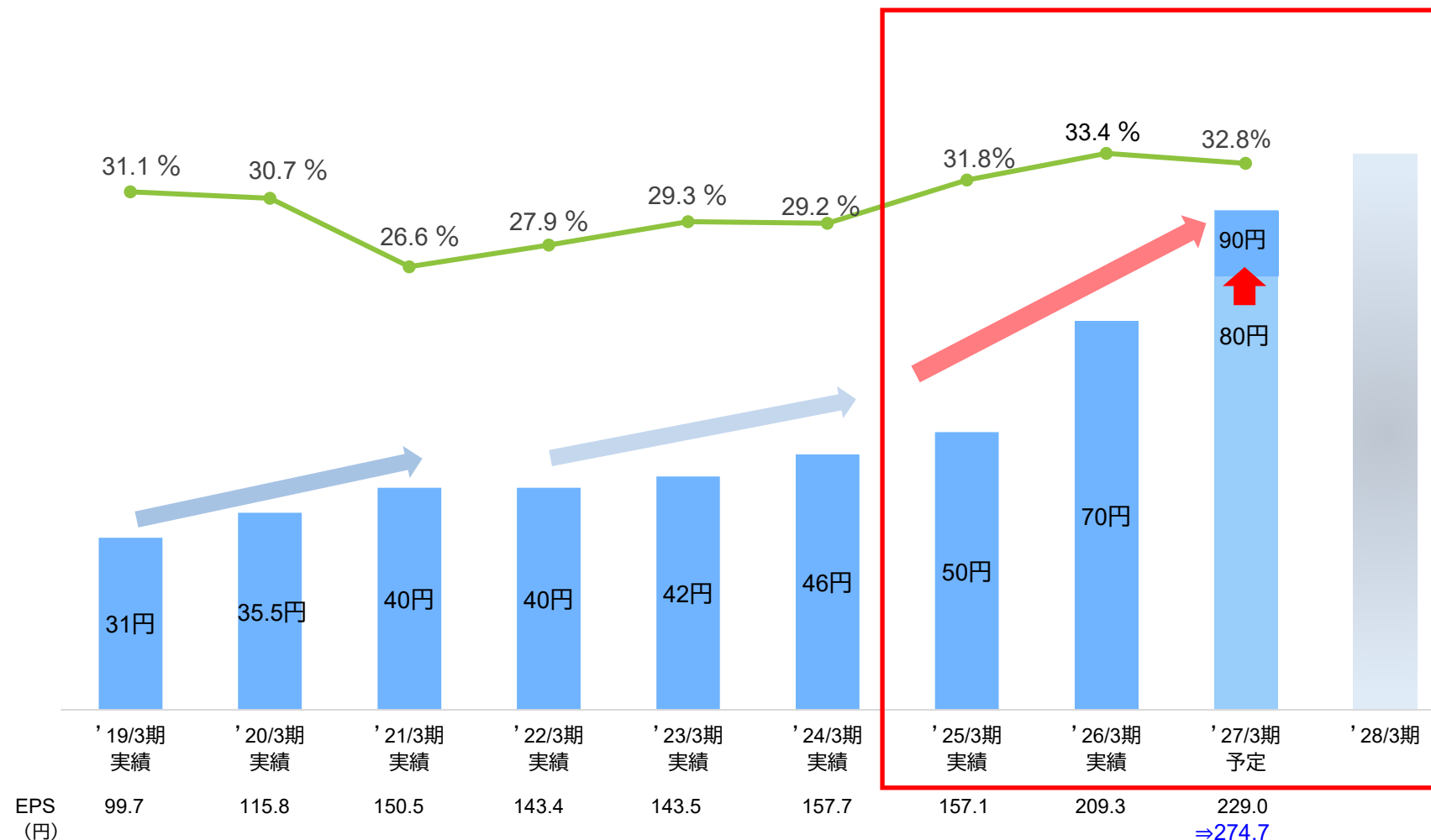


配当予想

配当方針(累進配当・配当性向※¹ 30～40%)に照らし、

‘27/3期の1株当たり年間配当金を80円から90円(前年比+20円)に見直す。(5期連続増配)

「中期経営計画2027」





目次

I 2027年3月期第2四半期決算概要

II 2027年3月期通期業績・配当予想の修正

III 「中期経営計画2027」の補足説明

IV 参考資料

売上高・営業利益 国内事業・海外事業イメージ

国内:過去最高値を更新する受注残高から着実な売上展開。
海外:AAS社の主力製品中心とした売上拡大。

⇒

連結 売上高・営業利益共に
過去最高値の更新を目指す。

(億円)

2,000

1,500

1,000

500

0

'24/3期

'25/3期

'26/3期

'27/3期

'28/3期

1,343

88

国内事業 営業利益

海外事業 営業利益

11

1,656

99

内 海外構成比
(18.8%)
(11.1%)

1,414

80

26

1,791

106

内 海外構成比
(21.0%)
(24.5%)

1,531

96

33

2,098

129

内 海外構成比
(27.1%)
(25.6%)

1,740

116

104

59

46

2,450

175

内 海外構成比
(29.0%)
(33.7%)

710

国内事業 売上高

'24/3期~'27/3期

国内事業 売上
平均伸長率9.0%*

海外事業 売上高

'24/3期~'27/3期

海外事業 売上
平均伸長率 31.5%*

「中期経営計画2027」

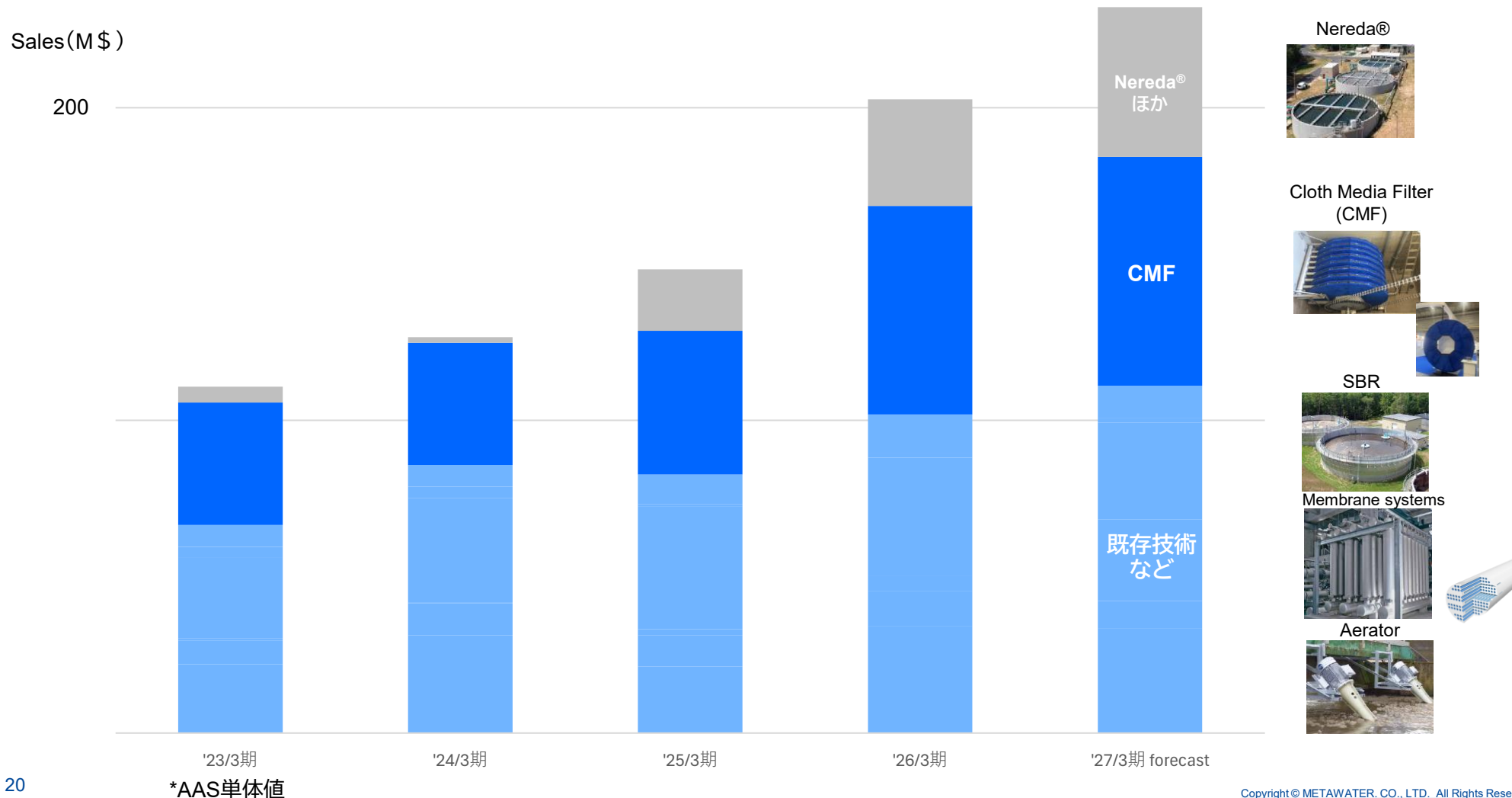
【連結】

売上高

営業利益

Aqua-Aerobic Systems, Inc.(AAS社)の売上推移

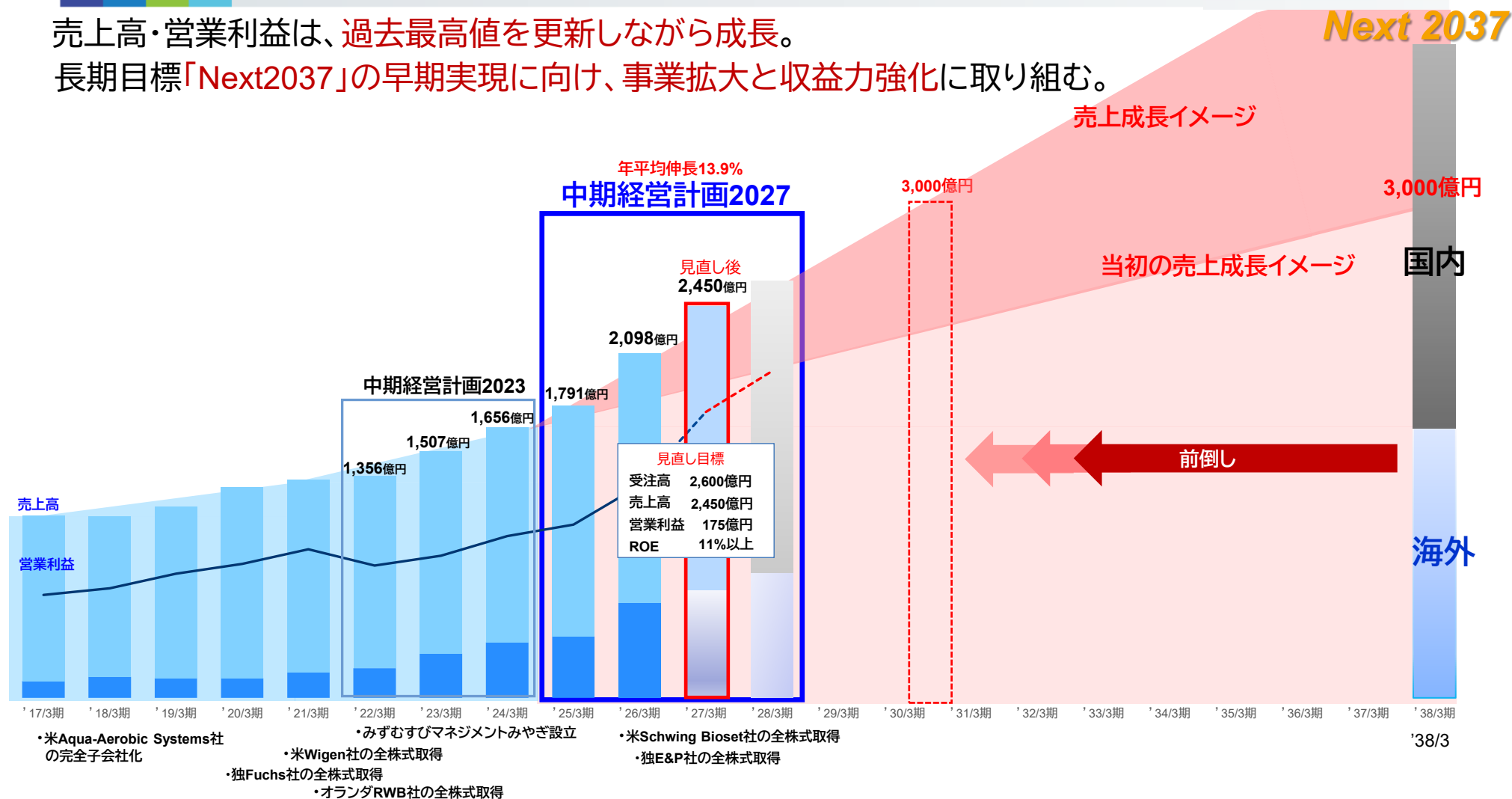
フラッグシップ製品であるCloth Media Filter(CMF)、新技術Nereda®に加え、PFAS対策など新たなソリューションの展開により、事業拡大を図る。



「中期経営計画2027」⇒長期ビジョン(仮称) **Next 2037**

売上高・営業利益は、過去最高値を更新しながら成長。

長期目標「Next2037」の早期実現に向け、事業拡大と収益力強化に取り組む。



サステナビリティのKPI

2024

国内全52拠点、国内現場事務所における
使用電力 実質再生可能エネルギー100%導入

2030

Scope1,2:GHG70%削減
顧客:製品・システム導入によりGHG50%削減

⇒2050

カーボンニュートラルへ

- I 2027年3月期第2四半期決算概要
- II 2027年3月期通期業績・配当予想の修正
- III 「中期経営計画2027」の補足説明
- IV 参考資料**

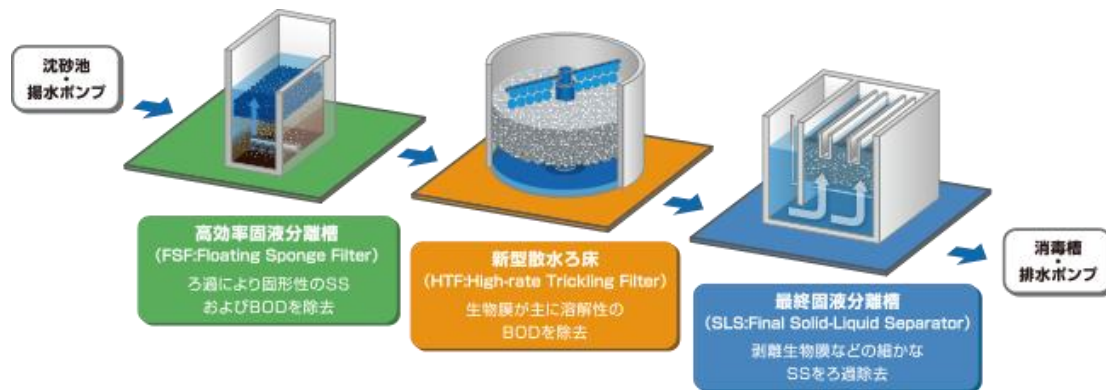
国土交通省 第9回「JAPANコンストラクション国際賞」を受賞

当社が参画する、カンボジア国プノンペン都で初となる公共下水処理場建設プロジェクト「プノンペン下水道整備計画」が、国土交通省主催の第9回「JAPANコンストラクション国際賞」*を受賞。

完成した「チュングエック下水処理場」では、水処理方式として、当社が新興国向けに開発し、すでにベトナム国ホイアン市などで導入実績がある「前ろ過散水ろ床法(Pre-treated Trickling Filter法:PTF法)」が採用され、1日当たり約5,000m³の生活排水処理を実現。

省エネ・省スペースかつ容易な維持管理を実現することから、現地のニーズに合致した技術として高い評価を受ける。

前ろ過散水ろ床法(PTF法)



表彰式に出席した「プノンペン下水道整備計画」の各社代表

*JAPANコンストラクション国際賞とは、国土交通省が主催し、①我が国企業が海外において携わった「質の高いインフラ」プロジェクト、②先導的に海外において活躍する中堅・中小建設関連企業、③海外において「質の高いインフラ」の実現に貢献している研究開発事業や人材育成事業等を表彰する制度

□環境エンジニアリング事業(略語:EE事業) 水環境事業、資源環境事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向け、機械設備の設計・建設および保守・維持管理を主たる業務としています。

□システムソリューション事業(略語:SS事業) システムエンジニアリング事業、カスタマーエンジニアリング事業

国内浄水場・下水処理場向け、電気設備の設計・製造および保守・維持管理を主たる業務としています。

□運営事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設の運営を主たる業務としています。

□海外事業

海外浄水場・下水処理場向け、施設・設備の設計・建設および保守・維持管理ならびに民需事業を主たる業務としています。

略語	EPC	Engineering, Procurement and Construction: 設計・調達・建設
	O&M	Operation and Maintenance: 運転・維持管理
	PPP	Public-Private Partnership(官民連携): 公共サービスの提供に民間が参画する手法
	PFI	Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
	DBO	Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
	コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の許可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法



ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様により有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp